

日本メックス株式会社



コーポレートレポート 2020

Corporate Report



より良い未来を、見据える

今日も、明日も、絶え間なく。日常とビジネスをインフラで支える。
私たちは建物のスペシャリストとして、持続可能な未来の実現へと、日々挑戦する経営を続けています。

企業理念

建物とともに生きる

建物を知り、建物を大切にし、建物をいかすことにより、持続可能な社会の発展に貢献します。

経営方針

お客様の期待を超える価値の提供

お客様によって異なる様々なご要望、ご期待を理解し、深掘りし、与えられた条件のもと知恵を絞って、期待を超える価値を提供します。

公正な企業風土と躍動感ある現場づくり

法令や社内規定を守り、適時かつ的確に情報を伝え、誠実で分け隔てが無い社内文化を醸成します。

また、日本メックスに関わる全ての従業員が元気で、明るく、意欲的に仕事に従事する魅力ある職場・現場をつくります。

未来を創る進化と革新

加速度的に変化する事業環境に対応しつつ会社の拡大発展を図るため、ビジネスや業務手法、個々人の能力の進化と、経営基盤や技術などの革新を弛まず進めます。

社名とコーポレートマーク



MECCSの頭文字「M」のイメージを基本として、社名に込められた企業姿勢をダイナミックに表現したものです。4つの丸は、頭文字以降の四文字を象徴し、会社が将来発展する可能性と、はつらつとした躍動感を軽やかに表現しています。

また、お客様へサービスする心、社会に貢献する心を、人のシルエットで表現しています。

M: MAINTENANCE
E: ENGINEERING
C: CONSULTATION
C: CONSTRUCTION
S: SERVICE

一人ひとりが、行動する

全員で考える。全員で挑戦する。私たちは高い知見と規範意識を誇りにしています。お客様や社会の声に応え、超えてゆくため、全ての従業員が、日々、力を結集します。

行動指針

私たちは「まじめ」を原点とします

社会に対し、お客様に対し、取引先に対し、会社に対し、そして自分に対して「まじめ」に取り組むことを行動の原点とします。

私たちは仲間を大切にします

当社の事業に関わる全ての取引先、グループ会社、従業員などの関係する「仲間」を大切にします。

私たちは挑戦しやり遂げます

従来からの慣例や常識にとらわれずに、技術やビジネスあるいは業務の変革に挑戦しつづけます。
また、決めた仕事は責任をもってやり遂げます。

目次

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 03 トップメッセージ | 11 SDGs 貢献の加速 |
| 05 社会の要望に応える経営 | 13 CSR への取り組み |
| 07 社会の礎を支える事業 | 19 事業を支える基盤 |
| 09 価値創造の仕組みとオンリーワンの強み | 21 会社情報 |

編集方針

日本メックス株式会社では、このたび、当社の事業やCSRに関する考え方および取り組みについて、その全体像を読者の皆様に対し、より広くご理解いただくことを目指して、『日本メックス株式会社コーポレートレポート2020』を発行しました。

本レポートでは、当社の事業の特長・強みや、当社が事業活動を通じて社会や地球環境に対して果たしている役割や取り組みをご報告しています。

報告対象期間

原則として、2019年4月から2020年3月まで。
ただし、一部情報は直近のものも含まれます。

対象範囲

日本メックス株式会社を中心に、一部グループ会社を含みます。

持続可能な社会に、貢献し続ける

高まり続ける、社会からの期待

皆様もご存知のように、2020年は、人類史に刻まれる激動の一年となりつつあります。2019年末より急速に世界を襲った新型コロナウイルス（COVID-19）感染症は、私たちの日常を一変させました。ニューノーマルとも称されるような日常・経済活動への価値観の転換を背景に、企業に対しては、今まで以上に社会面および環境面に際立った経営が求められています。日本メックスも同様で、従業員、取引先、そして一般生活者といったステークホルダーの皆様から寄せられる期待の高まりを、私は強く感じています。

完全収束までの道筋が依然不透明ななか、持続可能な社会の実現へと世界の求心力を一層高めるよう、国連はいち早くSDGsごとに強化すべき課題を提唱。NTTグループをはじめとする内外の企業群も取り組みを加速しています。そこには、社会面では安全衛生の強化や都市インフラの品質強化、環境面では電力ひっ迫に備えた施設のグリーン化など、日本メックスが力を発揮すべきテーマが数多く存在します。日本メックスのサステナビリティ経営が重んじてきたこと、そして新たな時代へと見据えるものを、当レポートを通じ実感頂けると幸いです。

NTTファシリティーズとの連携の強化

2020年1月、日本メックスはNTTファシリティーズの100%子会社として一員に加わりました。同社はNTTグループの「街づくり事業」を担う中核企業であり、インフラのICT化や環境負荷低減、メンテナンスのノウハウを持つ日本メックスのコンピタンスは、同社グループへの加入によりひときわ価値を増すと私は確信しています。「建物とともに生きる」を合言葉に歩む日本メックスは、今回の資本提携を大きな飛躍の機会とし、持続可能な社会に揺るがず貢献します。ステークホルダーの皆様には、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

白井 賢



SDGsへの貢献活動開始について

国連「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」は、2015年に国連総会で採択された世界的なイニシアチブです。先進的な生活インフラの実現や生活・安全水準の向上、不公正の撲滅、そして気候変動への対応など、2030年までに全世界が力をあわせ達成すべき17の目標を明確に定めたSDGsは、世界中の政府、企業、地域社会に対し、単なる信条的な賛同ではなく具体的な協働を求めている点に特徴があります。現在、各国政府は公約した国別目標の実現に向け産官学の垣根を超えた行動を推進しており、日本企業も業種を問わず、自社のCSR目標に紐づけた主体的貢献に加え、提供する製品・サービスの利用者の活動を通じた間接的貢献の仕組みづくりを積極的に展開しています。

日本メックスも社会インフラ構築に携わる企業としてSDGsにかねてより注目し、自社の貢献のあり方を検討してきましたが、2020年にNTTファシリティーズグループの一員となったことを契機にその歩をさらに

進め、従業員一人ひとりに対し貢献意識を啓発することは勿論、CSR重要テーマの再構築と併せた中期的な行動計画の策定を開始しています。

自らの事業特性を尊重しつつ、NTTグループとのシナジーも考慮したこれらの戦略体系には、新型コロナウイルスにより勃興した社会課題への対応も加味が必要であり、来年度の同レポートで公表する予定です。



新型コロナウイルス (COVID-19) への対応について

日本メックスでは、新型コロナウイルスの国内初の感染者が確認された1月下旬以降、従業員の安全衛生は勿論、自社のBCPならびに管理を受託している顧客施設の安全な運用それぞれの観点から、国内外の動向を注視すると同時に、全拠点を対象に始終業時間の変更、健康管理の徹底、在宅勤務およびオンライン会議の導入など、従業員、取引先そして協力会社の安全に配慮し、維持管理体制の縮小や緊急案件以外の工事の休工等、適時対応を講じてきました。また3月27日に都内拠点において当社従業員1名の陽性反応が確認された際は、当該事業者様からの要請に速やかに応じ、拠点全社員の自宅待機による体調

管理、日本メックス本社ビルから駆け付けによる遠隔保守体制を構築する即時対応を実施しました。政府による緊急事態宣言発令以降は全支店横断での対策ミーティングを定期的で開催しつつ感染拡大の抑制を徹底しました。

5月25日に全国で緊急事態宣言が解除されたことを踏まえ、6月以降の業務体制は各自治体および所轄保健所の指導・要望も踏まえつつ随時平常体制へと復帰を図りますが、引き続き社内外への感染拡大抑止と従業員の安全確保を最優先に、政府および自治体の方針等に基づき柔軟に対応を実施していきます。

社会の要望に応える経営

当社は1972年4月25日、日本電信電話公社の著しい発展に伴い、建築物の諸機能を十分に理解し、建物保全業務を円滑かつ効率的に実施しうる専門会社「株式会社日本総合メンテナンス」として設立。その後、1992年4月、創立20周年を期に、来るべき新時代の新世紀に向けてさらなる飛躍を願い、社名を現在の「日本メックス株式会社」に改めました。

2020年1月、NTTファシリティーズグループの一員となり、新たなステージを迎えた日本メックスですが、企業理念「建物とともに生きる」のもと、初心を忘れず、社会の発展と企業としての社会的責任を果たすべく、グループをあげて努めていきます。

会社沿革

1975年2月
日本団体生命仙台ビル：
常駐保守受注（民間第1号）

1974年4月
岡山出張所開設（第1号）

1972年
簡易工事初受注
「武蔵野通研」
（現：武蔵野研究所）

1972年度（第1期末）
支店 6
営業所 5
MC 18

建設業許可取得
（建築一式工事・大工・
電気・管・消防設備ほか）

1978年10月16日
「大手町総合ビル足場倒壊事故」発生
この10月16日を
「日本メックス安全の日」に制定

1978年3月
防災工事（第1号）
品川電話局防災工事完成

1986年
空調工事を初受注

1992年
創立20周年



1989年7月
μSATシステム初販売
（現・MECCS NET 24センタ2017年6月新スタート）

1972 創業期 1972-76年
日本で初めて「保守」と「工事」を総合的に行った会社

1980 拡張期 1977-84年
経験・ノウハウを蓄積しながら、支店や出張所の拡張に励む

1985 躍進期 1985-91年
職場環境の改善により、生産性の向上を図り、会社資本を蓄積

1990 充実期 1992-98年
日本メックスに社名は変わり、社章・社旗・ユニフォームを一新、新しいCIを導入

日本総合メンテナンス

1976年
株式会社ニッソウ設立

1977年
株式会社オネスト（現・株式会社メックスサポート）設立

1979年
株式会社札幌総設立

1988年
現・株式会社メックステクノ西日本設立

1992年
現・株式会社メックステクノ東海設立

1993年
メックスサービス株式会社設立

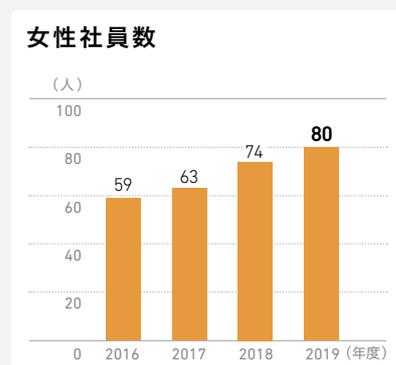
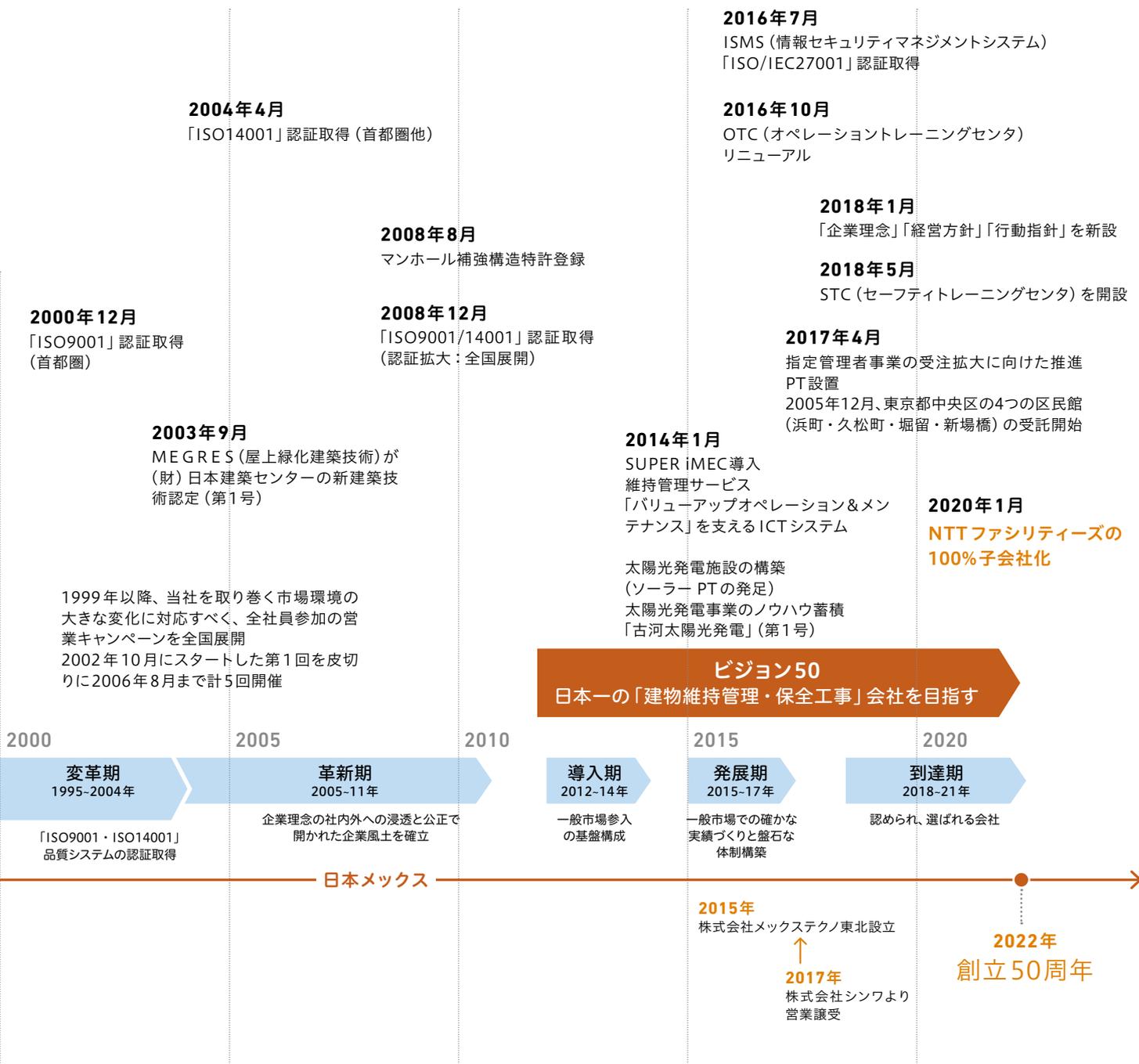
1996年
株式会社ゼネラルボーサイ子会社化

1998年
現・株式会社メックステクノ中国設立
現・株式会社メックステクノ九州設立

財務・非財務ハイライト

※日本メックス株式会社単体





建物とともに 生きる

より快適で、豊かな暮らしのために、
今日も街のどこかで、建物や施設をつくり、
守り続けています。

日本メックスは、「建物維持管理」と「建物保
全工事」の両方に精通したプロフェッショナル
ならではのサービスで、お客様の資産価値の最
大化に取り組みます。

日常的に維持管理より得られたデータを
ベースに「調査・分析・診断」し、中長期整備計
画やエネルギーコンサルティングを行い、その
対策として建物保全工事を進めていくという一
連のワンストップサービスです。

オフィス、観光施設で

オフィスビルやホテルなどの大
規模施設には、毎日、多くの利
用者が訪れます。私たちは快適
性と機能性、経済性と環境性を
兼ね備えたビルを提案し、その
改修から施設管理までを一手
に担うことで、お客様の資産価
値を守り続けます。



公共施設で

病院や郵便局、取引所などの、公共機関には、
様々な特殊機器も配置されます。強靱化、ICT化
の要望が著しい公共インフラ
を常に稼働させ、かつ利用者
に安心・便利を提供するため、
私たちならではの建築・管理・
運用ノウハウが発揮されます。



事業概要

建物維持管理

建物や設備の監視・点検業務を通して、利用者様に快適な環
境と安心をお届けします。電気や空調設備、上下水などの遠隔
監視や24時間365日受付など、お客様のニーズに合わせた総合
的なサービスを提供します。



電気設備



MECCS NET24センター

建物保全工事

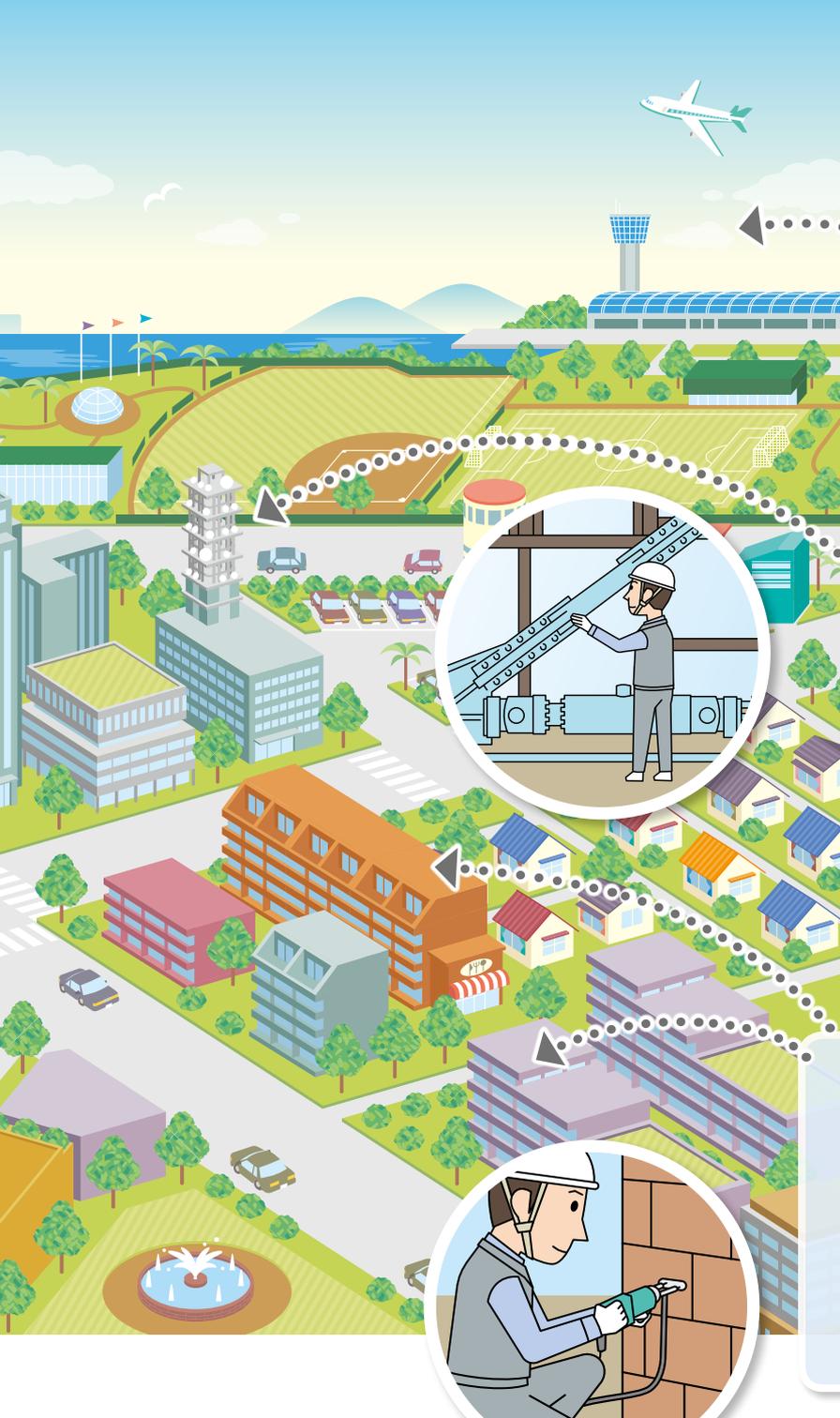
高い技術と安全性の確保を必要とするNTTの通信用建物を
はじめ、病院・オフィスなど各種施設の修繕・改修工事を行って
います。特に、通信機械など重要機械が稼働している建物で、
機械や事業活動を止めることなく行う建築・設備改修工事（居た
まま工事）は得意とする分野です。



屋上防水工事



耐震補強工事



空港の安全を守る

航空の灯火施設は飛行機の離着陸の命綱。万が一、不具合や故障が起こった場合は一刻も早い対応が必要となります。お客様をはじめ空港で働く全ての人々の安全を守る大切な役割を当社は担っています。



通信インフラで

建築業界でも難しいとされる、通信用建物やデータセンタなどの重要機械が稼働している建物での建築・設備改修工事は、NTTグループでの実績があり、当社が最も得意とする分野です。



集合住宅で

日々の生活の場には、常に「安心・安全・快適」が求められます。大規模施設を支える実績を基に、お客様の住環境を把握しメンテナンスを実施する私たちには、適切なタイミングでの修繕や設備更新のご提案が可能です。



建物 LC コンサル

建物のライフサイクル(LC)を考慮し必要な時期に必要な整備を行うため、建物の調査・診断による中長期整備計画を策定します。これは、外壁や屋上の外回りから、内装、空調機などの各種設備機器の更新・更改計画です。また、エネルギー管理や防火・防災・耐震などの建物健全性評価による分析・提案も行います。



外壁調査



コンサルティング

PPP事業

各地のスポーツ施設や区民館など公共施設の管理業務を通して、地域の皆様に愛される施設運営をお手伝いします。

道の駅や日帰り温泉施設など、一部の施設では運営業務も手掛けています。



蘇我スポーツ公園



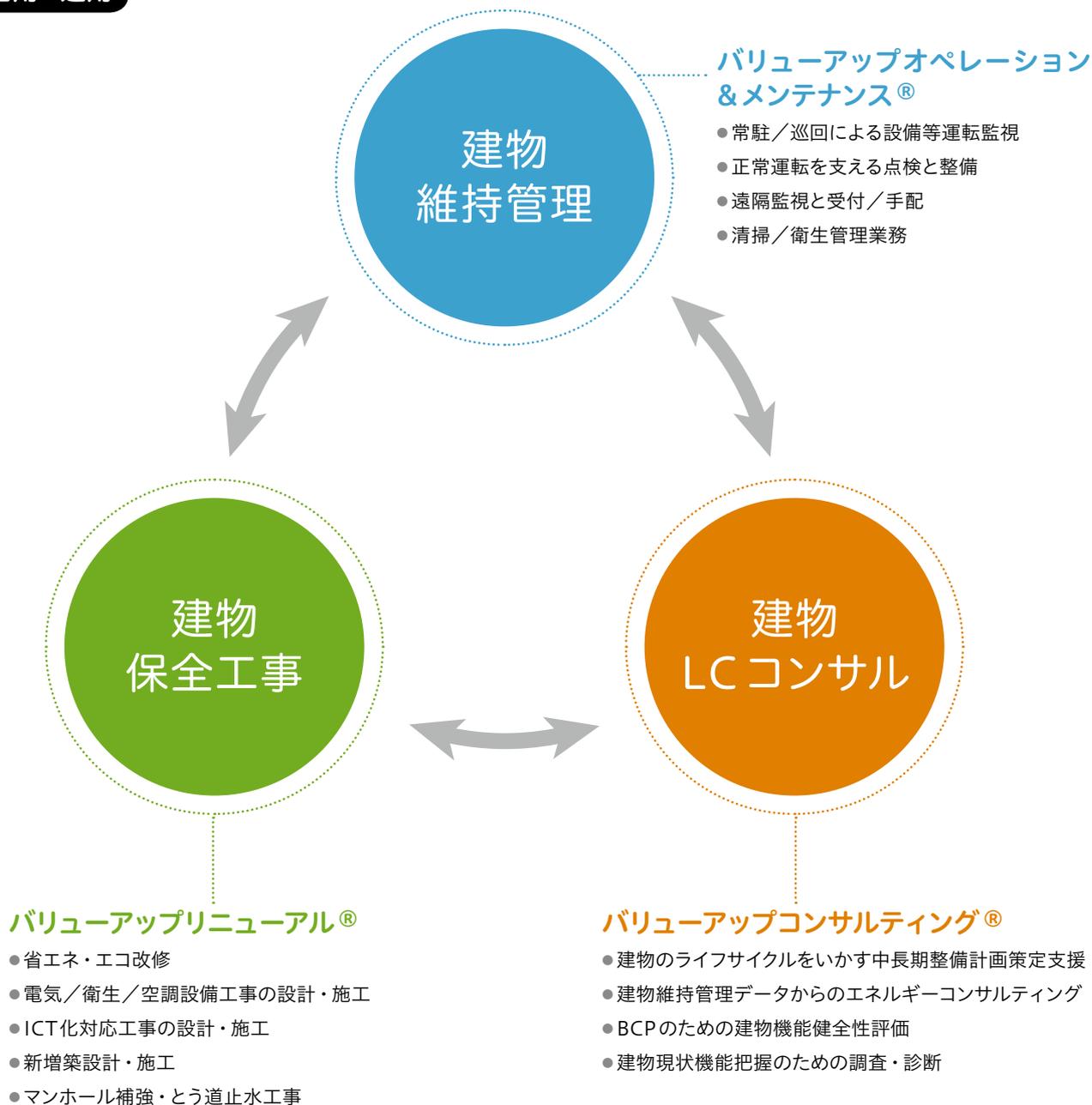
道の駅いちかわ

バリューアップのワンストップサービス

お客様建物の資産価値の継続的向上にむけて

バリューアップループ

活用・運用



※「バリューアップオペレーション&メンテナンス」「バリューアップコンサルティング」「バリューアップリニューアル」は当社の登録商標です。

日本メックスの強み

建物を知り、建物を大切にし、建物をいかすことにより、 持続可能な社会の発展に貢献

NTT通信インフラを支えてきた 高品質な維持管理

NTTグループ各社の通信ビルやデータセンタなどの「高機能ビル」を長期間にわたって支えてきた高品質な「建物維持管理」豊富な施工実績に基づく技術力・ノウハウを活用した「建物保全工事」の2つの事業を軸に、建物の安心・安全・快適を支えています。

人や設備を「居たまま」実施する 保全工事技術

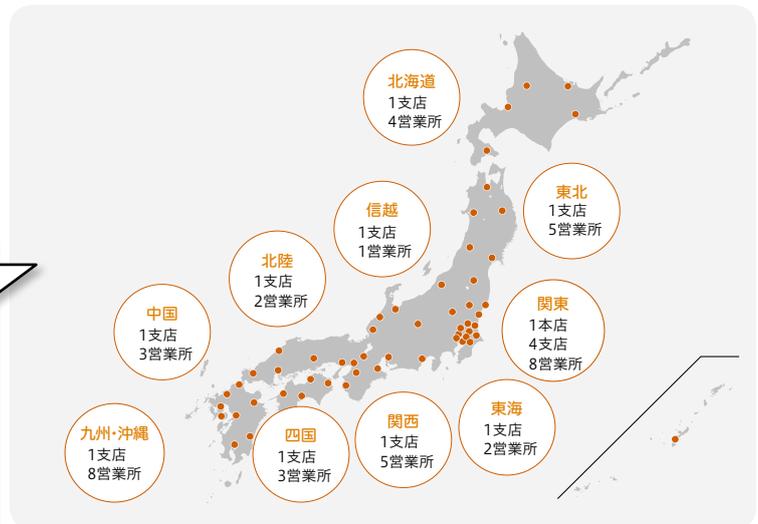
NTTグループの通信ビル、オフィスビル、社宅に対する豊富な工事経験・実績から、“人”や“設備”を「居たまま」「動かしたまま」で、安全に確実に工事を実施する高い施工技術を持っています。

全国サービス拠点

全国に直営180、協力会社1,200以上のサービス拠点をもち、そのネットワークを最大限に活かし、迅速かつ細やかなサービスを提供します。

全国の各エリアが連携し、
多様な建物をカバー

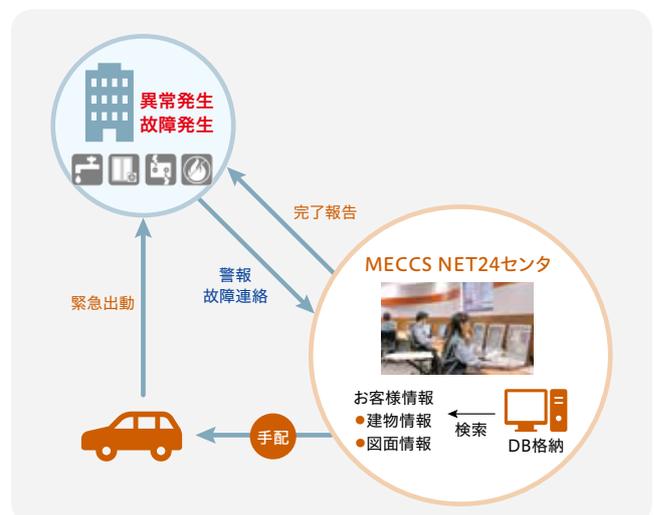
NTT建物：7,300ヶ所
 オフィスビル：1,000ヶ所
 集合住宅：2,000ヶ所
 その他：60ヶ所
 (病院、ホテル、空港、公共施設)



24時間365日対応可能な 「MECCS NET24センタ」

複数ビルに対して、遠隔でリアルタイムに設備異常を監視するサービスおよび緊急受付手配サービスを24時間365日提供し、様々なトラブルにも迅速に対応し、お客様に安心・安全をお届けしています。

- | | | | |
|------|-----|------|----|
| 給排水 | ファン | 自家発電 | 防災 |
| 温湿度計 | 空調 | 受変電 | 計測 |





日本メックスのSDGs貢献

快適な明日、サステナブルな未来を高品質なインフラで支え続ける

Case 01 NTTグループを支える、通信用建物整備

11 住み続けられるまちづくりを



SDG11

住み続けられるまちづくりを

社会の全ての人々が安心・快適に利用でき、レジリエントで、周囲とも調和した街をつくる。サステナブルな都市化の推進と、確実な都市管理能力の実現は、今や人類の持続的な発展に不可欠な課題であり、日本をはじめ世界各国が意欲的に取り組んでいます。その実現には不断の技術革新（イノベーション）と適切な製品・サービス化が不可欠であり、特に街づくりに携わる企業には一層の主導的な役割が期待されています。

日本メックスのできること、 目指すもの

私たち日本メックスは、NTTグループの通信ビルやデータセンタといった通信インフラの確実な稼働を実現するため、その維持管理と保全工事をトータルに担ってきました。日常生活・ビジネスを問わず、ICTが人類に不可欠なものとなった現在、私たちの活躍のフィールドは都市インフラの隅々に広がり続けています。私たちは、日々、先進的な工法を開発し、それらもいち早く取り入れた高品質な設備づくりで、社会の期待に応えます。

成果事例

100年を支える、レジリエントかつ街に調和したインフラ構築

—NTT大通4丁目ビル、耐震改修—

各地で稼働する通信用建物は、ICT社会の浸透に伴い、ライフラインとして重要性を増しています。私たちは、その確実な改修と管理を重要業務と位置づけ、技術を蓄積してきました。

札幌市にあるNTT大通4丁目ビルは1957年より北海道の通信網を支えてきました。建設から60年以上が経過した同ビルですが、耐震改修によりさらに40年利用する“100年建築”を目指すことになりました。都市部に立つ同ビルには、レジリエンスは勿論、利用者の利便性や地域に調和した外観も重要です。これらを踏まえ改修には外付け補強工法を



NTT大通4丁目ビル
(改修後)

採用。縦ラインを強調した美しい外観と耐震性能を併せ持つ建物に生まれ変わりました。なお外壁面への7,000本以上のアンカー打設をはじめ難易度の高い工事でしたが、延べ6年間を無事故で完了しました。同ビルの取り組みは内外で高く評価され、一般財団法人日本建築防災協会より平成30年度耐震改修優秀建築賞を受賞しました。

Our Impact

持続可能な街を支える、先進的な工法の採用

持続可能な社会を実現し、そして豊かな地球を守るため、世界中で17の目標を定め、一丸となって取り組む。国連SDGsの理念に、日本メックスは賛同し、日々、全員で貢献の可能性を模索しています。その成果は様々な事業で実を結びつつあります。これからも、さらなる貢献を見据え、挑戦を加速します。

Case 02 公共施設を刷新する、省エネソリューション

13 気候変動に
具体的な対策を



SDG13

気候変動に 具体的な対策を

気候変動の緩和と適応に世界全体で強く取り組み、地球の持続可能な未来を実現する。それを可能とする社会の仕組みを、早急に構築する。目標13は、歯止めがかからない地球温暖化を抜本的に打開するため、国や組織の垣根を超えて挑戦することを強く求めています。特に私たちのような街づくりに携わる企業では、自社の負荷軽減は勿論、お客様に提供する製品・サービスを通じた社会の低・脱炭素化でも、踏み込んだ貢献が急務です。

日本メックスのできること、 目指すもの

私たち日本メックスは、建物の長寿命化・省エネルギー化などの地球環境保護に資する事業活動を推進してきました。なかでもデータセンタや通信ビルといった発熱・電力管理にシビアな建物の経験に根差した低炭素化技術は、施設に求められる効率性および快適性とバランスよく実現するノウハウの強みとなっています。その成果は商業施設や公共施設といった様々な大規模施設へと拡がり続け、社会の低炭素化へと貢献しています。

成果事例

利便性を損なわずに消費電力を抑える、大規模なLED照明化

—広島県立総合体育館—

広島県立総合体育館は、広島市内にある県内最大の総合体育館です。ワールドカップをはじめ多彩な体育・文化の催しの場を30年以上にわたり担ってきた同施設は、近年、設備効率の改善を図る改修を進めていますが、低炭素化はその主要なテーマです。中でも照明は、施設の上重要な設備であり、過不足ない照度に加え、色合い、発熱量や照射エリアといった照明品質を損なうことなく省電力化を実現する必要があります。利用者の安全性配慮や撤去後の環境負荷も重要です。私たちは大規模施設で

の施工で得たノウハウを活かしたきめ細かい提案のもとに、武道場競技面の照明をLED化する電気設備工事を安全に施工しました。



広島県立総合体育館

2018年7月に完成した工事により120灯の水銀灯をLED化し、1灯あたりの消費電力を400Wから180Wへと削減しました。引き続き、周辺地域への提案も積極化することで、地域社会の低炭素化へのさらなる貢献を続けていきます。

Our Impact

社会を低炭素化する、たてものづくり

CSR基本方針

日本メックスグループは、企業の社会的責任を果たすため、「企業理念」「経営方針」「行動指針」のもと、CSR活動に取り組んでいきます。

日本メックスグループCSR基本方針

私たちは、企業理念「建物とともに生きる」に基づき、ステークホルダーの皆様との健全な関係を維持しながら、法令を遵守し、高い倫理感を持った事業活動を通じて、社会の課題解決と当社の成長を目指して、持続可能な社会の発展に貢献します。



お客様に対して

お客様の要望に応える良質なサービスを提供し、お客様の安心・安全・快適な環境を実現します。
また、品質マネジメントを推進して継続的な品質向上に取り組み、より高度なお客様満足の実現を目指します。



取引先に対して

関係法令の遵守、適正な契約の締結など、公正なルールに則った健全な取引を行い、取引先との相互の発展を目指します。



株主に対して

株主の利益のために、長期安定的な成長を通じた企業価値の向上を目指します。



従業員に対して

人権を守り、社員の多様性・人格・個性を尊重し、生き生きと安全かつ健全で働くことができる職場環境づくりに努めます。
また、高度な知識と技術を持って能力を発揮し活躍できる人材の育成に取り組めます。



地球環境に対して

建物の長寿命化・省エネルギー化等の地球環境保護に資する事業活動を推進します。
また、環境マネジメントを推進して、環境課題への的確な対応に取り組めます。



地域社会に対して

地域社会のより良い未来づくりのため、地域の健全な発展に資する活動に参加・協力し、良好な関係を築きます。

以上を推進するため、CSRマネジメント体制を確立し、適正な組織統治を実践します。

CSR活動報告



お客様に対して

お客様からの信頼獲得は、事業の持続的な成長に欠かせない経営課題です。日本メックスグループは、ISOに即した品質・環境マネジメントを重視し、グループ全体でのPDCAをトップ主導で継続的に実施しています。

品質マネジメント

品質・管理

当社は、2000年に品質マネジメントシステム(QMS)の国際規格ISO9001の認証を取得し、2008年に環境マネジメントシステム(EMS)ISO14001との統合認証を取得しました。品質方針を次のとおり定めています。



品質方針

1. お客様のニーズと期待に的確に応え、お客様満足度(CS)の向上を図り、信頼を確保する。
2. 品質マネジメントシステムの有効性の継続的改善により、技術に裏打ちされた良質なエンジニアリングとサービスを提供する。

推進体制

ISO9001、ISO14001の監査は、本社・全支店においてISO9001はこれまで年2回、ISO14001は年1回、実施しています。

推進体制については、トップマネジメントがQMS、EMS推進と役割をコミットしており、各部署および支店はそれぞれの役割を意識し、全社一体となって活動を展開しています。



取引先に対して

取引先との相互発展は、対等で公正な取引関係の上になり立ちます。日本メックスグループは、法令遵守は勿論、公正な取引関係の構築を基本とし、また環境性・社会性に配慮した取引先選定を心がけています。

購買の考え方

当社は「購買・外注管理規定」を制定しており、その規定に沿って取引を行っています。購買・取引先に対する主要な業務は、コストマネジメント部・購買担当が担っています。

取引にあたっては、お客様からいただいた設計図を基に積算・資材などの内容を把握したのち、各取引先に見積を依頼します。この結果をうけ、適切な数量・価格を提示した取引先に対して、建設業法に則した注文書にて発注をする、という流れです。その後の設計変更への対応も同様です。

取引先は、過去の取引実績などで管理され、個々の案件発注において公正さが保たれるよう、厳しくチェックしています。

取引関連法令遵守の取り組み

当社と取引先との取引開始にあたっては、下請代金支払遅延等防止法（下請法）、建設業法など関連法令を遵守する旨の契約書を取り交わし、公正で透明な商取引を求めています。

社内においても、営業担当者を対象とした契約基礎研修や工事担当者を対象とした建設業法令遵守研修などを実施するとともに、契約締結前の法的審査を行い、不公正な取引の排除とともに、公正な取引関係の構築・維持に取り組んでいます。

CSRを加味した調達の実施

当社は、社会に責任を果たす企業としてCSRに配慮した調達を心がけています。具体的には取引開始時点の審査において社会規範の観点から問題の有無を加味する手順を徹底し、また発注においても仕様に環境・社会面の要件を積極的に加味することを推進しています。



株主に対して

日本メックスグループは、アセットオーナーである株主から経営を託されているという認識を常に持ち、株主への説明責任の徹底と、株主との連携強化を心がけています。

NTTファシリティーズのグループ会社として

当社は2020年1月、NTTファシリティーズの100%子会社になりました。従来より各種事業で関わりの深かった両社の資本関係強化を通じ、NTTグループの街づくり事業を推進するなど、引き続きお客様への高付加価値なサービス提供を目指します。



従業員に対して

事業に関わる全ての人の人権を尊重し、その個性や能力が生き生きと発揮できる職場環境や処遇制度を実現することは、人財経営の基本です。日本メックスグループは、ダイバーシティとディーセントワークを全員の価値観として、共に歩みます。

人財に対する取り組み

人財育成

一人ひとりがプロフェッショナルとして活躍するため、人財育成プログラムを通して、「確かな技術力、高いマネジメント力を備えた人財」「正しいことを正しく行う、高い倫理観を持った人財」「自らを学び、仲間と教え合う、自律した人財」の育成を図っています。

● 資格取得

当社では資格取得が事業継続と密接な関係にあります。指定した資格の取得費用や奨励金の支給を実施しており、社員の資格取得を奨励しています。

また、年齢と職位に応じたキャリアプランと密接に関わった資格取得計画を策定するなど、社と社員の共栄を志向しています。

● eラーニング

eラーニングは、建設業法、電気関連、コンプライアンスや情報セキュリティなど技術力の基盤となる知識や法令遵守などに関わる意識づけなど社員の知識力の維持向上を継続的に実施しています。また、スマートフォンやタブレットでの受講にも対応し、隙間時間を活用した効率的な学習環境を整備しました。

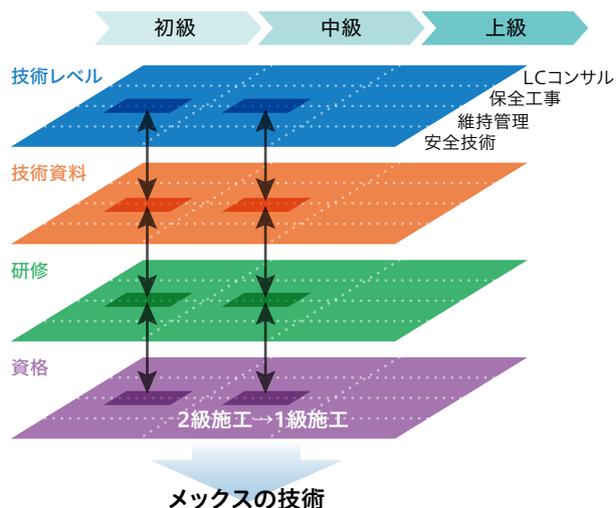
さらに2019年度はメックステクニカルカレッジも開講し、施工管理技士や建築物環境衛生管理技術者の受験対策講座を新設し資格取得者数の増加への取り組みなどを強化しています。今後も知識習得のツールとしてeラーニングを活用していきます。

メックステクニカルカレッジ

● コンセプト

【技術】を志す「個」と「集団」で在り続けるための「場」として、より一層の技術力向上に向けた社員自ら学習する「場」を提供し、また、技術力向上の意識を促すための仕組み。

- 2019年度は134名の研修生を迎え、プレ開校を開校しました。134名中97名が公的資格にチャレンジし、その中で27名が取得することができました。
- 2020年度は対象範囲を拡大し、40歳未満の400名を対象にT-CDP (Technical-Career Development Program) を活用した本格開校を実施します。



研修センタ

● セーフティトレーニングセンタ (STC)

● 本社ビル研修

同センタは、視て、触れて、感じることで、「安全」を学び、考えることをコンセプトとしており、疑似体験コーナーを含め、工事現場における「安全」についての心構えや基礎知識がしっかりと身につけられます。2019年度の実績は首都圏で700名、その他協力会社等が170名、計870名の体験研修を実施。2020年度の目標は首都圏で250名、その他協力会社等が200名、計450名の体験研修を実施予定です。



ぶらさがり体験



VRによる仮想体験



天井内作業体験



分電盤内作業体験

● 支店体験型研修

本社ビルでのSTCへ出向けない支店エリアの社員等に対し、持ち込みキットを作成し、現地にて体験研修を実施しました。2019年度の実績は全国支店230名の体験研修を実施しました。2020年度の目標は全国支店550名の体験研修を実施予定です。



タッチアンドコール



VR仮想事故体験



火災報知器誤発報体験



感電体験

● オペレーショントレーニングセンタ (OTC)

維持管理要員の人財づくり強化と「日本メックスならではの」付加価値の創出を目的とした同センタでは、電力保守と維持管理業務の複合技術者など、高度技術者を育成し継続的に確保するための実機研修の充実を図り、社員などの段階的な技術レベルの育成に活用しています。



衛生設備点検



電気設備点検



防災機器点検



空気設備点検

多様な人財の活用

女性の活躍促進

当社は業務の関係上、従業員に占める女性の比率が低い傾向にありますが、一方で、今後の持続的な成長を維持していくためには、女性の活躍が不可欠であると認識しており、採用においても女性の採用数増加のための施策を展開し、女性が適材適所で働ける環境づくりを進めています。

障がい者雇用

当社では、障がい者の方々に対して雇用機会を提供するとともに採用を強化しています。法定雇用率2.3%達成については人員の変動もあるため、今後とも各支店などを含めて継続的に取り組み、さらに多くの雇用機会を提供できるよう努めていきます。

業務改善活動

MWC活動 (MECCS Wisdom Circle)

2019年11月、MWC全国発表会を開催しました。安全性向上、効率化、低コスト化を検討・改善、解決すること（業務改善）で、『強い現場』の構築を図っています。



メンタルヘルス対策

労働安全衛生法の改正に伴い、企業にメンタルヘルス不調の未然防止を目的とするストレスチェックの実施が義務づけられました。ストレスチェック制度を適切に実施・運用していくために、管理者対象のメンタルヘルスマネジメント研修を行っています。

ストレスチェックやカウンセリングを専門とする社外講師を招き、ストレスチェック制度の概要やストレスの知識などの習得に取り組んでいます。

ワーク・ライフ・バランス

働き方改革推進の取り組み

当社は、従業員がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる会社とするため、「長時間労働の解消」「多様で柔軟な働き方の実現」「DX (Digital Transformation) による生産性の向上」「公正な待遇確保のための制度の検討見直し」「現場労働環境の改善（工事現場担当者週休二日制など）」「健康経営優良法人の更新」に取り組んでいます。

●各種休暇制度

当社では、従業員それぞれが仕事と家庭を両立させ、ライフステージに応じた働き方ができるよう、年次有給休暇（1時間単位での取得可能）をはじめ、ライフプラン休暇、出産休暇、育児休業、介護休業など、育児・介護に関する各種休業・短時間勤務制度を設け、従業員が生き生きと働ける職場環境の構築を図っています。

●福利厚生

従業員が安心して将来を考えながら働き続け、モチベーションの向上・パフォーマンスの発揮ができるよう、各種保険のほか、住宅手当や独身寮・借上社宅制度、財形貯蓄に勤労者財産形成給付金制度、定期健康診断や人間ドックなど、福利厚生の構築を図っています。

人権の尊重

日本メックスグループは、「CSR基本方針」および、「人権に関する基本方針」を定め、事業活動に関わる全ての人々の人権を尊重しています。

開かれた経営環境のもとで、一人ひとりが自己責任で行動できる、公正で活気に満ちた企業風土を確立するとともに、働きやすい環境づくりの重要な要素として、相談窓口の設置、研修会を通じた社内外の人権意識の高揚に努めています。

また、人権意識の向上施策などの一環として「コンプライアンスカード」を全従業員に配布するなど啓発に努めています。



環境に対して

日本メックスグループは、自社の環境負荷の低減と、環境性能に優れた建物の提案を両輪に、「建物とともに生きる」私たちならではの環境重視経営を実践しています。

環境マネジメントシステム

環境マネジメントについては、2004年に環境マネジメントシステム (EMS) ISO14001 の認証を取得し、品質マネジメントシステム (QMS) ISO9001 認証との統合後は、トップマネジメントが QMS・EMS 推進と役割をコミットしており、各部署および支店はそれぞれの役割を意識し、全社一体となって活動を展開しています。

環境方針

1. 事業活動による環境への影響を明確にし、技術的かつ経済的に可能な範囲で、環境目的・目標を定め、それを実現し、地球環境保護に努める。
2. 環境マネジメントシステムの有効性の継続的改善により、地球環境保護に努める。
3. 事業活動に適用される環境に関する法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、環境汚染の予防に努める。
4. 建物の長寿命化を推進し、地球環境の保護に努める。

環境に配慮した施工事例



自然換気 遮熱フィルム



LED照明



太陽光パネル



蓄電池

エコチューニング

当社は、2017年3月にエコチューニング認定制度における事業者認定を取得し、エネルギー資源の確保、地球温暖化防止といった社会的要請、お客様からの省エネルギーやエネルギー料金削減といったご要望に対し、ICT技術と省エネ技術の融合を図り環境負荷低減に取り組んでいます。



eco検定

東京商工会議所ホームページの「eco検定合格者数ランキング2017」に、当社が5位で掲載されました。建物の長寿命化によって地球環境保護に貢献する会社として、エコ意識・知識を高めていくため、これからもeco検定合格者数を増やしていきます。

eco検定合格者数





地域社会に対して

日本メックスグループは、企業市民活動と環境貢献活動を、各地の事業所ごとにきめ細かく実施しています。多岐にわたる活動を通じ、地域と共存する姿勢が全員の価値観へと浸透しています。

地球メンテナンス活動

社員一人ひとりの力を結集したチーム力で地球環境保護活動を実践するのが、地球メンテナンス活動で、MECCS、EARTH、Maintenanceの頭文字をとってMEM活動と呼称しています。



3つのアクション

①環境メンテナンス活動

生物多様性に配慮し、植樹や河川等の清掃など、生態系の保全や緑化活動に取り組みます。

②環境コミュニケーション活動

社内外のホームページ等を通じて、環境保護推進活動に関するPRに取り組みます。

③環境コラボレーション活動

NPO法人等が行う環境保護推進活動に協力した取り組みを行います。

地域とのふれあい

本社ビルがある入船三丁目の町内会が主催する納涼大会の運営に協力し、夜店での焼きそばを料理・販売し、おでん、かき氷などの販売のお手伝いもしています。



環境保護活動への参加

当社では、NTTグループ会社が主催するボランティア活動などに各支店・営業所を含め積極的に参加しています。

本社が中心となり、毎年NTTグループ会社が主催する東京都立小峰公園の里山再生活動に参加しています。



本社では、東京都中央区の地域一斉清掃活動「まちかどクリーンデー」に賛同し毎月清掃活動を実施しています。



東北支店では、岩沼市で開催された復興イベント「鎮守の森プロジェクト」にボランティア参加しました。植樹だけでなく、育樹も行いました。



三重営業所では、クリーンデーとして、事業所周辺の清掃活動を毎月実施しています。



関西支店では琵琶湖の水質浄化、生態系の維持・保存を目的に琵琶湖に生息するヨシ狩りのボランティアにNTT西日本滋賀支店グループの一員として参加しています。



中国支店では、「山陰海岸ジオパーク一斉清掃」にNTT西日本鳥取支店グループの一員として参加しています。



九州支店では、毎年「ラブアース・クリーンアップ～NTTグループ環境クリーン作戦～」に参加しています。





安全の取り組み

当社では、安全衛生管理体制を確立しそれぞれの役割に応じて、持ち場・立場で自主安全衛生活動を推進し、『不安全行動による労働災害』の撲滅を目指しています。

安全推進の基本

- すべてに優先して、人命の安全を考えよう
- 安全作業で、お客様の生活と財産を守ろう
- 技術向上に努め、危険予知能力を高めよう
- 創意工夫して、安全対策をたてよう
- 安全管理を推進して、会社の信用を高めよう

安全を優先するために「安全推進の基本」に基づき、重大事故の撲滅に取り組み、人命の安全確保とお客様の財産を守る。

日本メックス安全の日

過去の重大事故の風化防止および安全意識を高めるため、10月16日を「日本メックス安全の日」として、制定しています。

制定日は、1978年「大手町総合ビル足場倒壊事故」の発生日であり当社最初の死亡事故で第三者が亡くなるという重大人身事故でありました。

上記事故も含め「日本メックス安全コーナー」では、過去の事故事例などを掲示し同様な事故を二度と発生させないよう啓発活動を実施しています



日常における安全の取り組み

労働安全に関する法令および発生した事故における要因分析／対策検討の支店へのサポートを行っています。

また、過去の同時期に発生した事故事例を社内に日々情報発信して、同一事故、類似事故の再発防止に努めています。

全国安全衛生大会

取引先などを招いて安全衛生に関する意識統一を主なテーマとした「日本メックス(株)全国安全衛生大会」を毎年開催し、当社および取引先も含めた当該年度の安全に対する取り組み方針を確認する場としています。

本大会の出席者は、取引先も含め、全国各支店から支店長、工事部長、環境サービス部長、および本社関係部責任者が出席し、ご来賓、社外講師などによる安全講話などを実施し、当該年度の安全活動方針の確認を行います。

安全管理推進委員会

安全管理推進委員会は、建築物・建築設備の施工および維持管理業務における人的・物的災害事故などを未然に防止するため、日々の安全推進活動を通じて総合的な安全計画を組織的に展開し、安全に関するリスク管理を推進しています。

安全管理推進委員会の活動は、本社・支店・作業所など、それぞれに委員会を配置して、本社が毎年度、安全管理方針・年間活動計画を定め、支店ならびに作業所などでの委員会の運営方法、指導方法および安全意識の啓発活動の徹底を図っています。

また、社内公募により、安全標語を制定し、全員参加で安全意識を高めています。

災害(自然災害、パンデミック)対応

広域化、巨大化、長期化する地震などの災害発生を想定し、毎年9月に災害対策訓練を実施しています。

具体的には、巨大地震を想定した安全対策、体制確保ならびに対応ルールの確認などを実施し、お客様のビルを支え続ける役割を再確認しています。

なお2020年1月下旬に国内初の感染者が確認された新型コロナウイルスに対しても、当社のパンデミック対応方針をいち早く適用し、社員や協力会社の安全衛生を徹底すると同時に、感染拡大の抑止施策を全社で実施しました。現在はお客様や施設ご利用の皆様への安全・安心を高めるべく、管理施設の運用マニュアルの改訂を随時進めています。

2020年度安全標語

工事

慣れた作業の落とし穴
問いかけて 声掛け合って
ゼロ災害

維持管理

慣れるほど
増える手抜きに 迫る事故
毎日変わる 危険箇所



コーポレート・ガバナンス

お客様や社会から信頼される企業であり続けるため、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社は、安全・快適・機能的な建築空間を提供し、社会の持続的発展に貢献し、企業価値を向上するため、健全な業務執行体制、適切な監査体制を整え、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

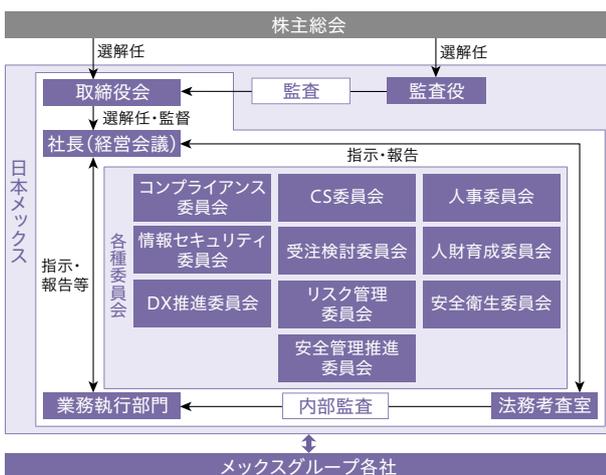
コーポレート・ガバナンス体制

当社は、取締役会を設置し、経営の健全性と透明性を高めるコーポレートガバナンス体制を構築しています。社長および重要な役職者で構成される経営会議の直下に、コンプライアンス委員会をはじめ各種委員会を設置し、業務を適正かつ迅速に執行する体制としています。

また、監査役は、重要な会議に出席するなど、取締役の職務執行に関し適宜監査を行っています。

さらに、取締役会は、コンプライアンス、リスク管理、財務報告に係る体制その他法令に定める内部統制システムを整備し、その運用が有効に行われているかを監督しています。

コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンスの推進

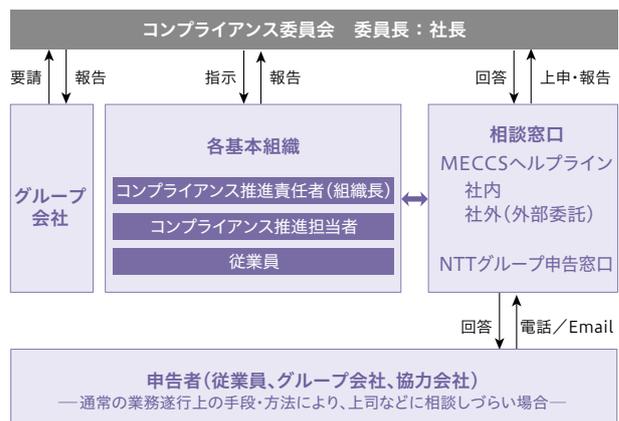
法令、社会規範、倫理、社内規定などの遵守を徹底し、経営の効率性の向上と透明性の確保に努めています。

コンプライアンスに対する基本的な考え方と推進体制

当社では、コンプライアンスの取り組みを実効性あるものとするため、その推進体制を整備しています。

コンプライアンス基本規程に基づくコンプライアンス委員会の設置に合わせ、各職場で具体的な活動を推進する推進責任者および推進担当者を任命し、現場主導型活動などを行い、コンプライアンス活動の日常化・活性化に取り組んでいます。

コンプライアンス推進体制



リスクマネジメント体制

「リスク管理委員会」においては、会社の経営・事業活動に重大な損失を及ぼし、または及ぼすと想定される経営上のリスクに対する管理活動を推進しています。

また、安全上のリスクに対しては、「安全管理推進委員会」において、総合的な安全計画を組織的に展開し、安全に関するリスク管理を推進します。

情報セキュリティの取り組み

当社は、「情報セキュリティ方針」を定め、お客様の情報資産などあらゆる情報セキュリティの脅威から保護するよう努め、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を導入し、ISO27001 認証を取得し、ISMS運用を全国で展開しています。

会社情報

会社概要

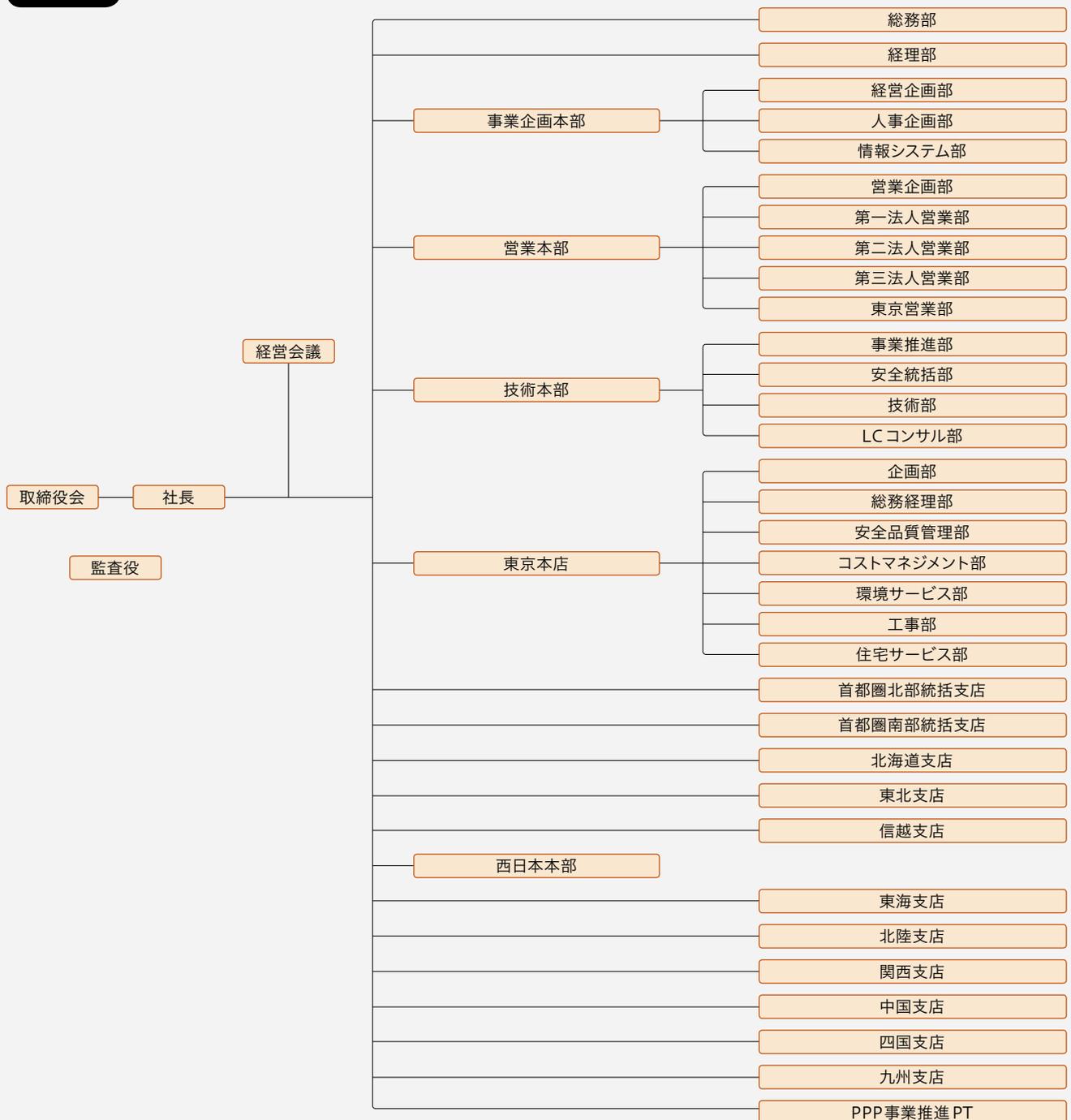
商号 日本メックス株式会社
 所在地 〒104-0042
 東京都中央区入船三丁目6番3号
 代表者 代表取締役社長 白井 賢
 設立 1972年4月25日
 資本金 1億2,000万円
 社員数 1,452名 (2020年3月31日時点)

役員一覧

(2020年7月1日現在)

代表取締役社長	白井 賢	取締役	辻井 泰人	本多 政敏
常務取締役	武田 和弘		豊方 謙夫	三浦 勝
	谷島 錦吾		加藤 由朗	佐々木 均
	大田 保之		坂本 博幸	餅 浩志
			栗林 博之	
			野田 省吾	
		監査役	井手口 修一	
			石塚 慎二	

組織図



許認可

● 建設業

特定建設業－国土交通大臣許可(特-28)第43号

土木工事業／タイル・れんが・ブロック工事業／建築工事業／鋼構造工事業／大工工事業／舗装工事業／とび・土工工事業／塗装工事業／石工事業／防水工事業／屋根工事業／内装仕上工事業／電気工事業／造園工事業／管工事業／解体工事業

特定建設業－国土交通大臣許可(特-30)第43号

建具工事業

一般建設業－国土交通大臣許可(般-28)第43号

電気通信工事業／消防施設工事業

● 1級建築士事務所

● 警備業

● マンション管理業

● 宅地建物取引業

● 労働者派遣事業

● 電気工事業

● 消防設備業

● 屋外広告業

● 建築物環境衛生総合管理業

● 建築物飲料水貯水槽清掃業

● 酒類販売業

保有資格

● 電気主任技術者(2種・3種)

● エネルギー管理士

● 建築物環境衛生管理技術者

● 冷凍機械責任者(1種・2種・3種)

● 電気通信主任技術者

● 電気工事士(1種・2種)

● 消防設備士(甲種・乙種)

● 危険物取扱者(甲種・乙種)

● 1級ボイラー技士

● 浄化槽管理士

● 1級ビル設備管理技能士

● 空気環境測定実施者

● 消防設備点検資格者(1種・2種)

● 酸素欠乏危険作業主任者

● 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者

● 特別管理産業廃棄物管理責任者

● 一般毒物劇物取扱者

● 水質管理責任者

● ビルクリーニング技能士(1級)

● 警備員指導教育責任者

● 防火管理者

● 衛生管理者

● 認定ファシリティマネジャー

● 管理業務主任者(マンション)

● 建設業経理士(建設業経理事務士含む)

● 1級建築士

● 設備設計1級建築士

● 建築設備士

● インテリアプランナー

● 構造設計1級建築士

● 1級建築施工管理技士

● 1級土木施工管理技士

● 1級管工事施工管理技士

● 1級電気工事施工管理技士

● 1級造園施工管理技士

● 2級建設機械施工技士

● 給水装置工事主任技術者

● 排水設備工事責任技術者

● 建築積算士

● 建築仕上診断技術者

[ビルディングドクター(非構造)]

● 建築・設備総合管理士

● 特定建築物調査員

● 建築設備検査員

● 防火設備検査員

● 宅地建物取引士

● マンション管理士

延べ人数：5,947名

(2020年3月31日時点)

グループ会社

株式会社札幌	〒060-0004	札幌市中央区北4条西16丁目1 テルウェル札幌第1ビル	011-676-7800
株式会社ニッソウ	〒300-2633	茨城県つくば市遠東916-4	029-848-0002
株式会社ゼネラルポーサイ	〒104-0042	東京都中央区入船3-6-3	03-5542-0481
株式会社メックスサポート	〒104-0041	東京都中央区築地1-9-2 イセツネビル	03-6264-3972
メックスサービス株式会社	〒104-0042	東京都中央区入船3-6-3	03-5541-5731
株式会社メックステクノ中央	〒104-0043	東京都中央区湊1-8-12 TIビル	03-5244-9900
株式会社メックステクノ東北	〒983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル	022-290-6841
株式会社メックステクノ東海	〒460-0008	愛知県名古屋市中区栄3-8-8 名古屋平和ビル	052-269-1525
株式会社メックステクノ西日本	〒541-0041	大阪府大阪市中央区北浜1-8-16 大阪証券取引所ビル	06-4707-2010
株式会社メックステクノ中国	〒730-0004	広島県広島市中区東白島町14-15 NTTクレド白島ビル	082-212-2212
株式会社メックステクノ九州	〒812-0013	福岡県福岡市博多区博多駅東2-5-28 博多偕成ビル	092-432-3211

〒104-0042
東京都中央区入船三丁目6番3号

お問い合わせ
総務部 CSR推進室
TEL：03-5541-5521
FAX：03-5541-5539

表紙の絵 「杉林に咲く」



山里深く、人知れず咲く桜。世界を覆う大きな試練の中、明日に向け、静かに、しかし確かに取り組む皆様へと、エールをおくりたいという私たちの思いを込め、選びました。

はり絵画家：うちだ まさやす内田 正泰氏

1922年、神奈川県横須賀市生まれ。
横浜高等工業学校（現・横浜国立大学）建築科を卒業後、食品メーカー PR課勤務を経て、1956年、アド・アートデザイン研究所を設立。以後、はり絵の個展開催、カレンダーのデザイン、横浜の地区センターやスポーツセンターなどの陶壁画も数多く担当し、鎌倉市長谷に常設ギャラリー有り。2019年9月12日永眠。享年97歳。